

SS6-1 今さら聞けない病理 AI

Pathology AI that you can't ask now

坂下信悟¹⁾

国立がん研究センター 先端医療開発センター臨床腫瘍病理分野¹⁾

Shingo Sakashita¹⁾

¹⁾Division of Pathology, Exploratory Oncology Research & Clinical Trial Center, National Cancer Center

=抄録=

PC に命令するのに“ライブラリ”が必要なように、コミュニケーションには、単語の共通認識が非常に重要である。「やっぱり Ai はさあ、病院毎にチューニングするんじゃない?」「畳み込みは古いよね、Vision transformer の時代でしょ。」くらいはギリギリついていけても「dbt を使って DAG でデータの関係性を可視化することを SQL でできるようにしているようです」と言われるとチンプンカンプンである。工学部の先生と病理医は本当に会話ができているか、甚だ不安である。また、コミュニケーション能力が高ければそれもできるのかもしれないが、お世辞にも得意でない人種同士である。では、良い会話ができるようになるにはどうするか、やはりバージョンのあった“ライブラリ”を読み込んでおくこと、つまり専門用語に対する定義、共通認識を合わせる事が重要だと考える。今回の私の講演は、基本的な病理 AI の原理を解説する事で、病理医と工学系の先生とがより会話ができるようになる事を目指す。工学系の先生には退屈と思うが、病理 AI をやっている人ですら、このレベルか、、、という実感をしてもらい、「釈迦に説法か」みたいな躊躇をせず、簡単な事から話してもらえようになって頂ければ幸いである。